

6.近鉄河内山本駅周辺地区のバリアフリー化の推進に向けて

(1) 市民、事業者、行政の役割

昇降設備の整備や歩道の段差の解消など、バリアフリー化を進めるためには主に行政や事業者が主体となって対策を行っていきませんが、より安全で使いやすいものへと改善を図るためには、これらの施設を普段利用する市民の意見を反映していくことが重要です。

このため、基本構想の推進にあたっては、市民、事業者、行政が連携を図りつつ、それぞれが互いの役割を認識し、効果的なバリアフリー化に取り組んでいくものとします。

表 6.1 市民、事業者、行政等の主な役割

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> 各事業者のバリアフリー整備に対する協力 バリアフリー整備に対する点検・評価への積極的な参加 日常生活におけるバリアフリーに配慮した行動の心掛け
各事業者の役割	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想に基づくバリアフリー整備の実施 バリアフリー整備にあたっての利用者の意見聴取及び集約 職員のバリアフリーに対する教育活動の推進
国の役割	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化に対する調査及び研究開発の促進 移動円滑化に対する情報提供 各事業者のバリアフリー整備に対する費用面での支援 国民のバリアフリーに対する啓発・教育活動の推進
大阪府の役割	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想に基づくバリアフリー整備の実施 公共交通事業者のバリアフリー整備に対する費用面での支援
八尾市の役割	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想に基づくバリアフリー整備の実施 バリアフリー推進体制の確立（利用者の意見聴取・集約、事業間の調整、進捗状況の管理、情報提供、整備後の点検・評価及びその後の事業へのフィードバック 等） 公共交通事業者のバリアフリー整備に対する費用面での支援 心のバリアフリー化に向けた啓発・教育活動の推進

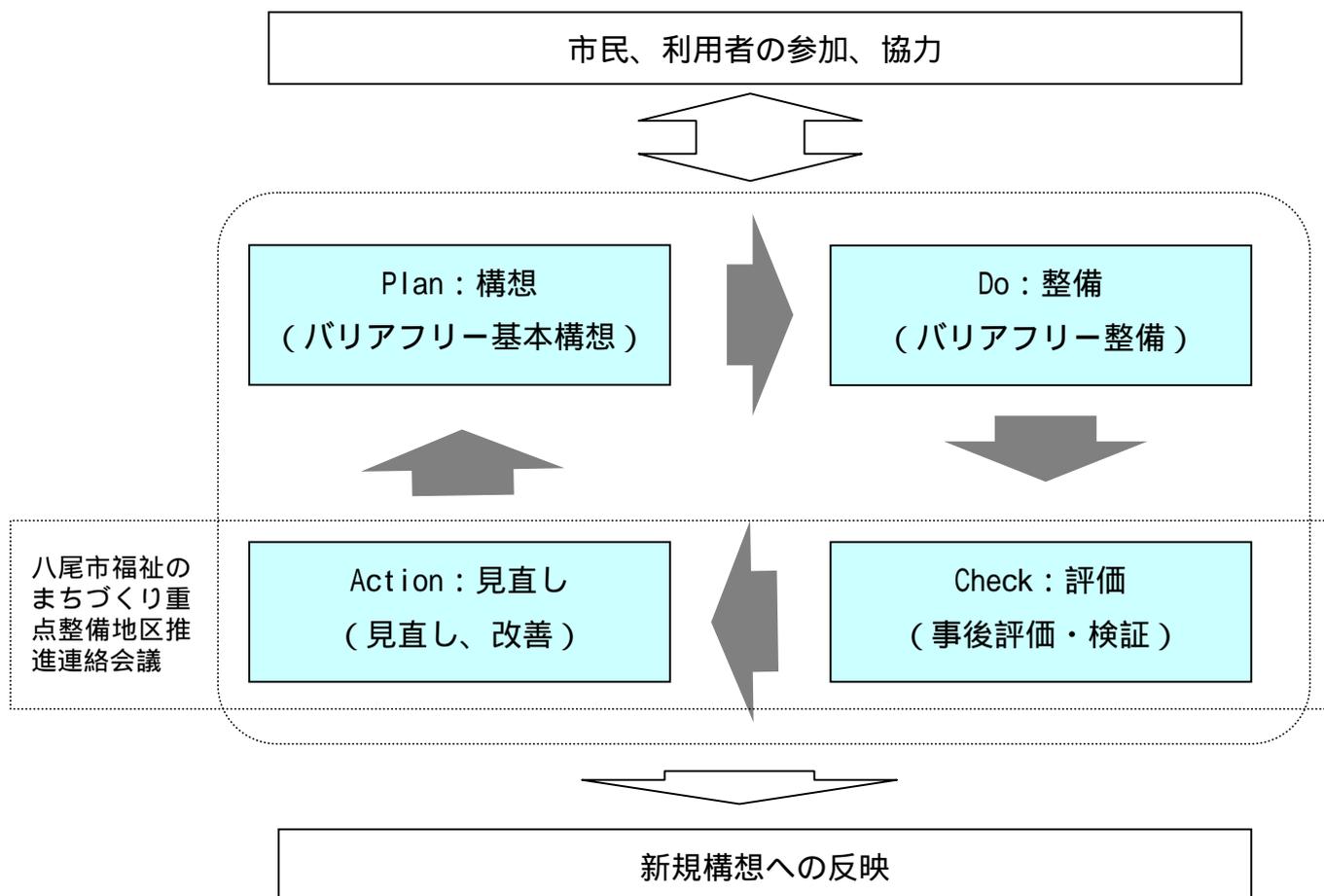
(2) 推進体制の確立

本基本構想では質の高いバリアフリー化の実現を目指すため、構想(Plan)、整備(Do)、評価(Check)、反映(Action)の仕組みにより、継続的な展開を図っていくものとします。

このうち、基本構想で位置づけたバリアフリー整備については、市民(利用者)、公共交通事業者、行政がそれぞれの役割を認識し、協働の取り組みによって特定事業を実施していきます。

また、河内山本駅周辺地区をはじめ、これまでに基本構想を策定した各駅周辺地区でのバリアフリー整備に関する進捗状況の評価、検証及び改善に向けた調整については、八尾市福祉のまちづくり重点整備地区推進連絡会議において取り組むとともに、ホームページや広報紙等により市民への周知を図ります。さらに、バリアフリーに関する市民意見を定期的に募り、新規構想の策定に活かしていくなどバリアフリーに関する推進体制の確立に努めます。

図 6.1 継続的な取り組みのイメージ



(3) 心と行動のバリアフリー

基本構想では駅における昇降施設の設置、歩道の段差や勾配等の解消等、主にハード面での移動円滑化について定めています。しかし、バリアフリーが整った場所でも放置自転車や置き看板などがあれば快適に通行することができません。また、近鉄河内山本駅周辺地区では、アンケート調査やタウンウォッチングの結果をみると、道路上の障害物や放置自転車等、道路の利用マナーに関するバリアが多く指摘されています。

このため、市民一人ひとりが「みんなも置いているからよいだろう」、「自分ひとりくらいが・・・」といった安易な気持ちを捨て、放置する行為が周囲に及ぼす影響について深く考え、マナーの向上に努めていくなど、指導を行う行政をはじめ、道路利用者や沿道住民が互いに協力しあうソフト面での対策も必要です。

八尾市ではバリアフリー体験学習の実施や話し合いの場の設置、イベントの開催などによる啓発活動の実施などによって、心と行動のバリアフリー化を図っていくものとします。